

医学統計学研究センター
平成 28 年度第 5 回セミナー

経時的繰り返し測定デザイン
－治療効果を評価する混合効果モデルとその周辺－

Repeated Measures Design: Generalized linear mixed-effects model and other related models for evaluating the treatment effect

講 師： 丹後俊郎（医学統計学研究センター）

日 時： 平成 28 年 12 月 2 日（金） PM1：15～PM5：00

場 所： 汐留イタリア街東京茶業会館 8 F 東茶協ホール

テキスト： 丹後俊郎著、「経時的繰り返し測定デザイン－治療効果を評価する混合効果モデルとその周辺」医学統計学シリーズ 10、朝倉書店、2015.

※当日、テキスト購入を希望される方は事前登録が必要です。4,800 円（税込）

対 象： 臨床医学、公衆衛生学、疫学などの研究に従事している大学院生、研究者、実務家、臨床開発に従事している製薬企業の統計担当者、その他、本セミナーに興味のある者

参加費： 参加申し込み区分（税込）：

A：アカデミック 1万2千円（大学・病院・研究機関所属の方）

B：ノン・アカデミック 2万4千円

定 員： 50 名（定員に達し次第受付締切）

セミナーの内容：

そもそも、「薬が効く」ということは必ずしも「病気が治る」という意味ではなく、また、すべての患者に一樣に効くというわけでもない。同じ薬剤を同じ用法用量で投与されたすべての患者が同じように反応することは極めて稀で、早期に改善傾向を示す患者もいれば、残念ながら悪化してしまう患者もいる。しかも、どの患者がどちらの方向に反応するかは事前には予測が難しく、投与後の経過観察でしか分からない、という反応プロファイルに「予測不可能な個体差」が存在する場合も少なくない。この治療への反応プロファイルの個人間差を変量効果（random-effects）で表現し治療効果を評価できる統計モデルとして一般化線形混合効果モデル（Generalized linear mixed-effects model）が最近注目を浴びてきている。

本セミナーでは、最近発行されたテキストに沿って、具体的な動物実験データ、臨床試験データを用いて、統計ソフト SAS を主に利用し混合効果モデルの適用、結果の解釈を解説するとともに、1) 尤度に基づく欠測データを無視できる解析が可能、2) 症例数の低減が図れる、一般化線形混合効果モデルをベースとした新しい Repeated Measures Design、について解説する。更に、各治療群毎の平均プロファイルを超えた反応プロファイルの個人間差が存在する場合には、一般化線形混合効果モデルでは治療効果を評価できないので、このような個人差に対応し治療効果を評価できる統計モデルとして潜在プロファイルモデル（latent profile model）の概略も紹介する。



エレガントな汐留イタリア街で行われる
最先端のセミナーに参加しませんか？



Coffee Break では素敵な音楽と Coffee & Sweets が楽しめます

アクセス:



東京茶業会館 8 F
東茶協ホール
港区東新橋 2-8-5
(汐留イタリア街)

JR「浜松町」駅「新橋」駅
地下鉄大江戸線・ゆりかもめ
「汐留」駅、地下鉄三田線
「御成門」駅より 徒歩7分
地下鉄浅草線・大江戸線
「大門」駅より 徒歩8分

セミナー参加申込方法：

参加希望の方は、配布資料の準備もごございますので、**11/24** までに、できる限り、
事前登録をお願い致します。

参加申し込みは  e-mail にて承ります。参加費は当日お支払い下さい。
※領収書と参加証明書お渡し致します

宛先: secretary@medstat.jp

件名：第5回セミナ一参加申込

本文：1. ご氏名 2. ご所属 3. 参加申し込み区分
4. 参考書購入希望の有無

※セミナーのお申し込みをいただいてからお申込者様のご都合でキャンセルされる場合、キャンセル料を申し受けますので、ご注意、ご了承下さい。セミナー開催の

8 日前（開催当日を含まず）まで： 不要
7 日前 - 前々日のキャンセル： 参加費の半分
前日 - 当日のキャンセル： 全額